

令和 8 年度三木市社会福祉審議会 第 1 回高齢者福祉計画・介護保険
事業計画策定検討部会 会議録

◇日時

令和 8 年 7 月 3 日（金） 13:30～15:00

◇場所

三木市役所 4 階 特別会議室

◇次第

1 開会

2 報告・協議事項

(1) 各種調査結果報告

ア 三木市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果報告について

イ 三木市在宅介護実態調査の結果報告について

ウ その他調査結果の報告について

(ア) 認知症こころの声アンケート

(イ) 介護人材実態調査

(ウ) 居所変更実態調査

(エ) 在宅生活改善調査

(2) 計画策定に係る基本指針の基本的な考え方と求められる取組について

3 閉会

◇出席者

【委員】

出席 14 人、欠席 4 人（戸田委員、村川委員、加藤委員、藤田委員）

【事務局】

健康福祉部：山城部長

介護保険課：春川課長、中下係長、藤枝係長

高齢福祉課：坂本課長、松本副課長兼地域包括支援センター所長、井上課長補佐、吉本係長、
川上係長、渋谷主査

◇議事要旨

1 開会

事務局

ただいまから、令和8年度三木市社会福祉審議会「第1回三木市高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画策定検討部会」を開催いたします。委員の皆様におかれましては、公私ご多忙の中、ご出席いただきましてありがとうございます。本日の会議につきましては、議事録作成にあたり、会議を録音しますのでご了承ください。

本日の会議資料を確認します。

【資料確認】

事務局

今後のスケジュールにつきまして、配布資料をご覧ください。

【資料に基づきスケジュール説明】

事務局

新年度になって最初の会議であり、委員の異動もありますので、委員の皆様に自己紹介をお願いいたします。

【委員自己紹介】

事務局

続いて事務局につきましても、新年度で異動等がありましたので、自己紹介いたします。

【事務局自己紹介】

事務局

それでは開会にあたり、池田部会長よりご挨拶をいただきます。

部会長

本日はご多用のところ、三木市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定検討部会にご出席いただきありがとうございます。委員の皆様には、日頃よりそれぞれの立場から本市の福祉・介護施策の推進に関し、ご理解とご協力を賜り、心より感謝いたします。三木市では急速な高齢化の進展と支援ニーズの多様化を踏まえ、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けることのできるまちづくりを進めています。検討部会はその実現に向けて、本市の高齢福祉施策と介護保険事業の今後の方向性を整理し、第10期の新しい計画を策定する上で専門的かつ事務的なご意見を皆様から頂く大変重要な会議であり、委員の皆様には、日々感じておられる課題や、地域団体の取組の状況、地域の皆様のお声など、率直にお聞かせいただければと思います。以上を持ってご挨拶とさせていただきます。

事務局

本日の検討部会の成立についてご報告します。本検討部会は18名の委員で構成されており、本

日は戸田委員、村川委員、加藤委員、藤田委員の4名から欠席の連絡があり、14名の委員の出席をいただいております。三木市社会福祉審議会条例第7条第2項の規定により、本日の会議が成立していることをご報告いたします。なお、本日の傍聴者はゼロです。今年度は、第5期三木市地域福祉計画の策定、三木市高齢者福祉計画・第10期三木市介護保険事業計画の策定、第6期三木市障害者基本計画、第8期三木市障害福祉計画・第4期三木市障害児福祉計画の策定という3つの重要な計画を策定する必要があり、さる6月29日に社会福祉審議会に計画の策定を諮問いたしました。本日は三木市高齢者福祉計画・第10期三木市介護保険事業計画の骨子について審議いただきたいと思いますので、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただければと存じます。それでは議事に入ります。ここからの進行は池田部会長にお願いいたします。

2 報告・協議事項

(1) 各種調査報告

部会長

それではまず議題1、各種調査結果報告について事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料に基づき説明】

部会長

介護予防日常生活ニーズ調査、在宅介護実態調査、認知症こころの声アンケートや介護人材実態調査、居所変更実態調査、在宅生活改善調査について報告をいただきました。多岐にわたる内容ですが、今回の報告についてご意見などがあればお願いします。

委員

介護予防日常生活ニーズ調査の13ページですが、9期と10期が比較されており、下から2番目のその他について、40.5%と特に多いのですが、これがとても減っています。この項目は介護できないから外出できないということが含まれているのでしょうか。

事務局

その他が前回非常に多かったということですが、前回調査時点では新型コロナウイルス感染症の影響がまだ大きい時期でしたので、その影響について前回は記載が多くありました。その他が減ったことについては、基本的には感染症の影響が減ったということだと考えております。

委員

在宅介護実態調査14ページの、継続していくにあたって不安に感じる介護について、入浴や外出の付き添い、その他の家事といったものが今回大きく減っています。世話をする人が入所して不安が減ったといったことがあるのでしょうか。通常なら増えて当たり前ではないかと思われま

事務局

デイサービスが充実しているために多少減っているといったことは考えられます。また外出については三木市で令和3年度からデマンド交通を始めており、前回の調査時に比べて利用が3倍近く増えているということがあり、一つの要因ではないかと思われます。その反面、8ページに戻っていただくと、今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、外出同行や輸送サービスは高い数字ですので、引き続きの課題であると考えています。

部会長

他にご意見はいかがでしょうか。介護予防日常生活ニーズ調査17ページの、定期的に歯科受診している人が64%となっていることについていかがでしょうか。

委員

定期的というのが年に1回なのか、自身の判断でなのかということではありますが、数年前と比べると、悪くなってから来るのではなく、その前に来る人は増えたと感じています。15～17ページの状況について、口に関する質問がありますが、ものをかむということが大事で、むせることも口腔機能に関することですので、チェックして相談していただければと思います。

部会長

介護予防の一つとしていきいき体操を知っている人は半数近くありますが、にこにこ体操は知らない人が80%くらいありますので、もう少しアピールしていただくとよいと思いました。他にはいかがでしょうか。老人クラブについていかがでしょうか。

委員

老人会については入っている人がおおむね2割、これからは行ってもいいかなという人が2割、関心のない人が6割です。これから2割は入ってもよいとみているというのはうれしいことで、まだまだ活動内容が周知されていない、老人会が何をしているの？という方がいらっしゃるので、もっと楽しい活動を皆さんに知らせていくことが大切だということを改めて確認しました。認知症にならないためには外に出る、人に会う、人と話すということが大事なので、そういう機会を多く作り、人とつながる機会を多く持てる行事をしたいと思います。

今は60歳代の方は働く人も多く、一人ひとりの考えも変わってきて、集団の中でするよりも友達と仲良く、自分のしたいことを何人かでやっている人が増えており、そういう人は老人会に入らなくても自分で楽しみを見つけています。老人会も今までと違った新しい方法で勧誘して入ってもらうための方法を考えなければと思っています。

部会長

今回のアンケートではボランティアや成年後見制度についての内容も含まれていました。ご意見などいかがでしょうか。

委員

成年後見制度の結果については、よく知っているという人が前回の約3倍に増えています。また、あまり知らないが聞いたことはあるという回答も増えています。こういうことが切実になっているケースが増えてきたのだと思います。本当に困った時には、この制度にたどり着くのだと思いますが、そこに行くまでに、こういう制度があることを知っていれば、将来に向けての安心材料になると思います。社協としても市と連携しながら成年後見制度の周知に力を入れています。老人クラブや自治会で成年後見制度について勉強してみようという機会を持っていれば、周知が進むのかなと思います。

有償ボランティアについては、高齢者ファミサポという制度があります。これも利用者が増えています。一方で、協力をするという支援する側が足りなくなっていて、マッチングが難しくなっています。16歳以上であれば協力会員になれるということで、去年から三木北高校の生徒が有償ボランティア体験ということで、実際にボランティアに入ってもらい、利用者も非常に喜んでいるということがあり、これもさらに周知して協力会員を増やしたいと思っています。

委員

在宅介護実態調査について、介護サービスを利用していない理由について、本人に希望がないとか、現状はサービスを利用するほどではないとか、家族の支援があるから必要ないといった理由があることがよく分かったのですが、この対象者は、再申請するときの人たちだと思います。要介護1～5までがあると思いますが、軽い人から聞いているのではないかと思います。大体どれくらいの要介護度の人に聞いたのかということをお教えいただければと思います。

事務局

在宅で生活をしている方ということでは要介護4、5よりは要介護3以下が多いと思いますが、正確な数字は把握していません。

(2) 計画策定に係る基本指針の基本的考え方と求められる取組について

事務局

【資料に基づき説明】

部会長

今回新しく第10期の計画策定の基本方針についてご確認いただきたいと思います。事務局から説明のあった策定方針について、基本理念を踏襲し、示された方向で策定を進めたいということですが、基本方針、分野別の取組についてご意見などはないでしょうか。基本的にはこの骨子でよろしいでしょうか。それでは、骨子の案についてはこれで進めていきたいと思いますので、事務局にはこれに基づいて計画策定を進めていただきたいと思います。他に今回のアンケートでも結構ですので、何かご意見があればお願いします。

委員

基本理念が示されており、前回から引き継いでということですが、住み慣れた地域の中で、というものがどこを指しているのだろうと改めて考えています。三木市というのは、非常に地域差があるため、きめ細かい当事者のニーズに基づいた地域づくり、計画を作っていかなければミスマッチな計画になってしまうのではないかと感じています。三木市ならではの計画を立てていかなければならないと思いますので、地域差にしっかり目を向けていただいて、今後検討していければと思います。

委員

お聞きしたいことが1点あるのですが、例えば一人で暮らすためにゴミ出しの問題があります。私は見るに見かねてゴミ出しを手伝うようになって4年になります。しかし近所のご家族が知っているのか反応がないままです。私が昨年入院から帰ってきたとき、運転はもうできないと言いました。そうすると別の人に車を出してほしいと。ボランティアではなく。それを話し合って修正したいのですが、どういうアドバイスをしたらいいのかと思います。

委員

ゴミ出しの有償ボランティアはないのでしょうか。

委員

私は甘えたいということで有償ボランティアは嫌だ、ということです。なかなかそこを説得する難しさを感じています。

委員

周囲に助けてほしい内容と、それを助ける人とが、うまく一致するというのはとても難しい問題です。制度はあるのですが、その人にぴったり合うかというと別の話で、地域の方、お隣の方、近所で支えておられる。共助ということだと思いますが、それでうまくいっているところもあれば、うまくいかないところもなる。そこに高齢者ファミサポがうまく合えばいいですが。知らない者同士がよいこともあれば、お隣の方がよいということもあって難しい。いろんなサービスがありますので、まずそれを知ってもらうのは大事で、知らないサービスがたくさんあると思います。市や社協に気軽に問い合わせをすればと思います。

部会長

それでは進行を事務局にお返しします。

事務局

池田部会長ありがとうございました。また委員の皆様には長時間にわたりご審議をありがとうございました。閉会にあたり植田副部会長にご挨拶をお願いします。

3 閉会

副部会長

先ほど人口統計について説明がありました。それを見ると全国の統計より三木市は先行しているということです。高齢化率にしても、5年ほど早く推移しているということです。国の動向を待っていては、三木市は手遅れになるということです。しかし、三木市が問題解決したという頃に国や県は大変だという時代を迎えるのだらうと思いますので、これから作成する計画においても、三木の現状にマッチした、三木市ならではの計画になるよう、ぜひ委員の皆様の貴重なご意見をいただければと思います。忌憚のないご意見をいただけるよう、次回10月の会議でもお願いしたいと思います。

事務局

植田副部長ありがとうございました。次回の開催は10月を予定しております。日程は決まり次第ご案内いたします。それではこれで閉会とさせていただきます。ありがとうございました。